

カンガルーシップ活動 理解プロジェクト 実施報告書

報告日	平成 28 年 2 月 25 日
学校名	群馬大学教育学部附属特別支援学校
PTA会長名	寺内 浩

実施概要	実施活動名	「中之条ビエンナーレ 2015」参加プロジェクト「あそびアートカフェ～みんなの家～」にかかる活動
	実施日時	「中之条ビエンナーレ 2015」参加プロジェクト 「あそびアートカフェ～みんなの家～」に向けた準備・制作期間：平成 27 年 4 月 11 日～9 月 11 日 「中之条ビエンナーレ 2015」開催期間：平成 27 年 9 月 12 日～10 月 12 日 開催期間中の中で合計 6 回実施（毎週土曜日の 10:00～15:00 の時間帯）
	実施場所	参加プロジェクト準備・制作：群馬大学教育学部附属特別支援学校（8 回） 参加プロジェクト開催会場：旧中之条町立伊参幼稚園（8 回）
	実施目的	本校高等部の生徒が「中之条ビエンナーレ 2015」に参加し、多くの方々とかかわることで、本校のことや本校の生徒のことを伝え、共生社会に向けての理解が得られるようにすることを目的とした。
	実施内容	参加プロジェクト開催会場において本校生徒の作品を展示したり、来場者への飲料提供を行ったりした。生徒は来場者を案内したり、飲料を手渡し一緒に制作をしたりするなどを行った。
	実施方法	本校高等部生徒と教員が群大美術科生や美術作家と共同で 4 月より本校にて準備・制作を行った。当日のりハーサルとして、学校祭である「ふようまつり」（8 月）内でも展示し、来場者とかかわる機会をもった。「中之条ビエンナーレ 2015」開催期間は、毎週土曜日と最終月曜日に参加することとし、保護者が会場へ生徒を送迎した。また、保護者も来場者となり運営を支援した。地域の方々をはじめ関係者に向けて来場のお願いや活躍の場の提供依頼なども行った。
参加人数	保護者 30 名程度、高等部生徒 19 名、群大美術専攻学生 10 名程度、美術作家 3 名 （「中之条ビエンナーレ 2015」開催期間中 参加プロジェクト開催会場来場者数のべ 1,000 名程度）	

報告事項	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の高等部生徒は、平成 27 年 4 月から 9 月まで「中之条ビエンナーレ 2015」参加プロジェクト「あそびアートカフェ～みんなの家」に準備するため会場で使用する作品制作を行いました。 ・本校の高等部生徒は群馬大学の美術専攻の学生とともに「中之条ビエンナーレ 2015」の開催期間中の合計 6 回「あそびアートカフェ～みんなの家～」を運営しました。本校の高等部生徒は交代で運営し、1 回当たりの生徒の参加者は 6 名程で一人平均 3 回ほど中之条の会場にて運営に携わりました。 ・会場には、4 月から準備してきた作品を取り入れ、温泉に見立てた記念写真を撮影できる「温泉」コーナーや「ピタゴラ装置」で遊べる「ピタゴラ」コーナー、大きな黒板にチョークで絵を描く「ドローイング」コーナーなど 6 つの遊びのコーナーができました。生徒は来場した方を各コーナーに案内したり、コーヒーを主とする飲料を提供したりし、来場者と一緒に活動を楽しみました。
	結果	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、参加プロジェクト「あそびアートカフェ～みんなの家～」の企画・運営の機会をとおして、自分の思いを表現したり来場者とコミュニケーションを図ったりすることができました。これらは、作品制作やアートカフェの運営をとおして、群大美術専攻の学生と共に活動をする中で、学生に対して信頼感をもち、徐々にコミュニケーションの幅を広げて行ったことが自信につながったと考えます。その後、生徒は以前より友だちや教師に積極的に話しかけたり、相手の話をしっかりと聞いたりする様子が見られてきています。
	所感	<ul style="list-style-type: none"> ・この「あそびアートカフェ～みんなの家～」は、生徒にとって「中之条ビエンナーレ 2015」という機会の中で学生スタッフや多くの来場者とかかわりをもつことで、コミュニケーションが苦手な生徒であっても人にかかわろうとするきっかけとなりました。今後も他者とかかわる機会を積極的に設けてより実践的なコミュニケーションを図り、障害がある方が社会の中で自然に活躍することにつなげていきたいと思えます。

添付書類

収支決算書、領収証添付シート、参加感想、活動の様子の写真
ホームページの掲載は可



学校でピタゴラ装置を作る様子



中之条の会場の様子



来場した人と大きな絵を描く様子



来場した人とスタンプを押す様子



コーヒーを注いでいる様子



来場した人に飲み物を手渡す様子



ワークショップも楽しむ様子



ピタゴラ装置を直す様子

カンガルーシップ活動 理解プロジェクト参加感想

提出日	平成 28 年 2 月 25 日
学校名	群馬大学教育学部附属特別支援学校
学年	高等部 1～3 年

1. 生徒の感想

(1) 高等部の生徒

- ・群大生や作家さん（アーティスト）と一緒に大きな絵を描いたり、「ピタゴラ装置」を作ったりしたことがとても楽しかったです。
- ・みんなで作った版画や「ピタゴラ装置」や「温泉」が会場に飾られて、来た人が楽しそうに見たり遊んだりしていたので嬉しかったです。
- ・小さい子どもからおじいちゃん、おばあちゃん、外国の人も来て驚きました。来た人と一緒に「レゴブロック」で文字を作ったり、スタンプをしたりしました。
- ・来た人に、コーヒーをカップに入れて渡しました。「おいしい」と言って飲んでいました。喜んでくれてよかったです。
- ・「ピタゴラ装置」の調子が悪くなると直すようにしました。大学生や来場者のみなさんと一緒に直し、うまく直ると喜んでもらえて嬉しかったです。
- ・たくさんの方が来てくださったので、コーヒーや紅茶などの飲み物を渡すのがとても忙しかったです。でも、たくさんの人に渡せてよかったです。
- ・最初は来場者の人とどう話したらよいか心配でしたが、一緒に絵を描いたり飲み物を渡したりしてコミュニケーションをとることができて安心しました。
- ・「中之条ビエンナーレ」に参加している外国の作家さんが会場に来てくれました。コーヒーを飲みながらスケッチブックに絵を描いてくれました。嬉しかったです。
- ・前橋のまちなかでカフェをがんばっています。中之条でもたくさんの人にコーヒーを出せてよかったです。

(2) 小学部の児童・中学部の生徒

- ・高等部になったら、中之条ビエンナーレに行きたいです。参加もしたいです。
- ・高等部の先輩たちと、カフェでまちなかへ行っています。いろいろな所でたくさんの人に美味しいコーヒーを飲んでもらいたいです。

カンガルーシップ活動 理解プロジェクト参加感想

提出日	平成 28 年 2 月 25 日
学校名	群馬大学教育学部附属特別支援学校

1. 保護者の感想

(1) 「2015 中之条ビエンナーレ」参加に向けた制作や取り組みについて

- ・「群大の美術科の学生をはじめ全国でワークショップを展開されているアーティストの方やビエンナーレに参加しているアーティストの方など、この機会に多くの方々と出会い、かかわることができてとても嬉しそうでした。」
- ・「普段なかなか描けないような大きな紙に自由に描いたり、みんなと一緒に一つのものを作り上げたりすることができ、とても貴重な機会となりました。」
- ・「連絡ノートに貼られたその日の様子の写真を見て、とても楽しそうに制作している様子が伝わってきました。」
- ・「中之条で宿泊学習をして、学生やアーティストの方と一緒に会場となる場所でそれぞれ感じたことを布に描くなどして創作できてよかったです。」

(2) 「2015 中之条ビエンナーレ」会期中の取り組みについて

- ・「これまでは高等部では2年に1回開催される『中之条ビエンナーレ』の見学（鑑賞）を行っていました。今年度は群大の美術科の学生や関係アーティストと共に『中之条ビエンナーレ』に参加することができました。送迎などたいへんな部分もありましたが、参加した子どもたちの様子から貴重な機会を得たということを感じました。」
- ・「このプロジェクトに参加してとても楽しかったようです。とてもよい表情で参加でき、本人もまた行きたいと言うので、参加回数を当初の予定より増やしました。」
- ・「会場に来た方々にコーヒーを渡したり、いろいろなコーナーに案内したりし、普段の生活ではあまり見られない姿が見られました。」
- ・「作業学習の喫茶サービスとは違う形でしたが、生徒たちがこれまで取り組んできたことや見てきたことなど、本校の特色となるものが土台となってまた違う形で地域に出て行くことができてよかったです。」

(3) その他

- ・「今回、この企画に関するシンポジウムに参加しました。無理だと思わずにいろいろなことに挑戦していくことの大切さを実感しました。これからは子どもの力を信じて様々なことに挑戦していけるように応援したいと思いました。」